女子サッカー日本代表の誕生

1050652D　　秋　元　厚　美

キーワード：女子サッカー、日本代表、誕生

序論

【研究の目的と意義】

女子サッカー日本代表は1981年6月に香港で開催されたアジア女子選手権に参加するために結成されたのが始まりである。その前後をみると、1979年に女子連盟の誕生、1980年に全日本女子サッカー選手権大会の開始、1981年9月に国内初の国際試合であるポートピア 81 国際女子サッカー大会の開催が続いており、1980年前後は女子サッカー史において大きな画期であったことがわかる。今後のサッカーの普及の在り方を展望する上で、最初の女子サッカーの改革期と言えるこの時代についての認識を深めることは極めて重要であると考える。そこで本研究では、1980年前後に焦点を当て、女子連盟や全日本女子選手権大会に触れながら、女子日本代表が誕生した経緯や初期の女子日本代表の活動内容と評価を解明することを目的とする。

【先行研究の検討】

先行研究を検討すると、1980年前後の女子日本代表の誕生に注目して書かれておらず、女子サッカー史の流れの中で簡潔に書かれているため、十分な記述がなされておらず、また初期の女子日本代表誕生の活動内容や評価を明らかにした論文や著書は見当たらなかった。

【研究の課題】

本研究の課題は以下の3点とする。

1）女子サッカー日本代表誕生の背景

2）女子サッカー日本代表の誕生

3）初期の女子サッカー日本代表の活動内容と評価

【主な研究史料】

1）JFA機関誌：『サッカー JFA NEWS』、『J.F.A. news』

2）サッカー関連雑誌：『サッカーマガジン』、『イレブン』

3）新聞記事：『朝日新聞』、『読売新聞』、『サンケイスポーツ』

4）インタビュー調査：鈴木良平氏（女子サッカー日本代表誕生時の監督）、加藤寛氏（女子サッカー普及時の神戸フットボールクラブ職員）、吉田（旧姓清水）万帆氏（女子サッカー日本代表誕生時の代表選手）へのインタビューを行った。

5）神戸サッカー友の会機関誌：『友の会ニュース』

本論

第1章　女子サッカー日本代表誕生の背景

女子サッカー日本代表誕生の背景として、日本における女子サッカーの高まりと香港からのアジア女子選手権への参加要請があげられる。本章では、日本における女子サッカーの興隆、具体的には、女子サッカー連盟誕生、全日本女子サッカー選手権大会開始について、それぞれの設立経緯と活動内容について明らかにした。

日本女子サッカー連盟誕生の背景としては、各地域（関東・関西・東海）でリーグが行われていたり、東西王座決定戦が開催されていたりと、女子サッカーが盛んになってきていたこと、また国際的にも、女子サッカーの活発化を背景とした、女子のサッカーも管轄下に置くようにという FIFA からの通達があったこと、これらの2つの要因があげられる。初期の女子連盟では、1）連盟主催の大会を開くこと、2）代表チームを作ること、これら2点に関する話し合いが行われていた。

全日本女子サッカー選手権大会は、公式の大

会を開きたいという選手の思いや、連盟主催の大会を開くという目標を達成するために、東西王座決定戦を発展的に解消して誕生した。本大会は予想以上にハイレベルな戦いであるとメディアから評され、大きな注目を集めた。当時の女子サッカー普及に、本大会が及ぼした影響は大きかった。

第2章　女子サッカー日本代表の誕生

女子日本代表は、国内における女子サッカーの高まりと、香港からのアジア女子選手権への参加要請の両方がうまく一致して誕生した。当時の女子連盟の理事会では、国内における女子サッカーの高まりを受けて、女子の代表チームを作りたいという話が出ていた。さらに代表結成の前年に、女子連盟はアジア女子サッカー連盟に加盟している。以上から、女子連盟は代表チーム結成を視野にいれていたことは確かである。だが、代表チームを結成したいという思いがあっても、国際試合となると海外へ試合をしに行くか、日本に海外のチームを呼ぶ必要があるため、手つかずの状態であった。そのような時に、香港から第4回アジア女子選手権への参加要請が届いた。その要請に対し、日本サッカー協会と女子連盟は、女子連盟発足から2年が経過していて、全日本女子サッカー選手権大会も開始されているなど、国内における女子サッカーの情報が集まっていたため、将来のために若い女子選手に経験を積ませたいという思いから参加に意欲を示した。一方で、資金調達問題、社会人の休暇問題、世界の競技規則への対応（11人制、5号球、試合時間など）など、さまざまな困難が生じた。そこで、それぞれの問題を、スポンサーと選手の自己負担、直前合宿等で解決し、アジア女子選手権に向けて、女子日本代表の結成に踏み切った。

第3章　1981年における女子サッカー日本代表の活動

本章では、初期の女子日本代表の活動内容を明らかにするために、初めて女子日本代表が結成された大会である第4回アジア女子選手権（香港開催）と、初めて日本で開催された国際試合であるポートピア81国際女子大会（神戸・東京開催）の2つの大会を扱った。

前者のアジア女子選手権は、結果としては台湾やタイなどの国々と大きな実力の差があり、惨敗であったが、日本の女子サッカーの問題点を明らかにし、今後進むべき道を示した重要な大会であったといえる。この大会をきっかけに女子サッカーの普及に加えて、世界で戦えるチームづくりという強化が意識され始めたといえる。以上より、女子サッカーの将来につながる多くの収穫があった大会と位置づけられる。

ポートピア81国際女子サッカー大会は2点の意義があったといえる。1点目は、世界のトップレベルを肌で感じ、日本が世界で戦えるチームとなるためには、技術面、体力面の双方を向上させる必要があることを再確認できたこと、2点目は、監督のコメントにもあったように一般の人への女子サッカーへの知識を改めさせたことである。以上より、社会に認知度の低い女子サッカーを知ってもらうきっかけとなった大会と位置づけられる。

結論　女子サッカー日本代表誕生の意義

日本サッカー協会も日本女子連盟も財政面において厳しい状況であったが、国内における女子サッカーが盛んになり、選手が日本代表として試合をしたいと高まっている時期に、女子サッカー関係者が奔走して女子日本代表が結成された。また、1981年に出場した2大会は、以後の女子日本代表の方向性を確立したこと、国内における女子サッカーの認知度を上げたこと、この2点で重要な大会であった。現在の女子日本代表の活躍の底流には、この1980年前後における一連の革新的な実践が存在しているといえるだろう。

（指導教員　秋元　忍　准教授）